

千葉県公立高等学校入学者選抜改善検討会議（第1回）【概要】

日 時：令和5年4月20日（木）

午後4時30分から午後6時まで

会 場：千葉県庁企画管理部会議室（中庁舎9階）

1 出席委員（名簿順）

真田 範行 委員 渡部 茂樹 委員 大和 政秀 委員
石塚 由乙 委員 藤ヶ崎 功 委員

2 次第

- (1) 開会の言葉
- (2) 県教育委員会挨拶
- (3) 委員紹介及び委員長・副委員長選出
- (4) 報告

令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜について

- ア 入試制度について（日程・実施状況）
- イ 採点について
- ウ 採点誤りについて
- エ その他

(5) 協議（非公開）

令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜における採点誤りの状況と原因の分析

(6) 閉会の言葉

3 会議内容（抜粋）

(3) 委員紹介及び委員長・副委員長選出

委員長に真田 範行氏、副委員長に藤ヶ崎 功氏を、互選により選出

(4) 報告

(事務局) 資料について説明

(委 員) 「思考力を問う問題」とは、どのような問題か。

(事務局) 国語、数学、英語等の内容を含んだ、その名のとおり思考力を問う問題である。

(委 員) 第2点検までしない学校もある。第2点検をしたことによって、ミスが少なくなっているのか。

(事務局) 後半の協議で回答する。

(委 員) 選抜日程の採点日に、土日が挟まれているが、土日は採点に関わらないということ
でよいか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) 合格発表まで日数は、千葉県と茨城県が5日、神奈川県は6日と、千葉県は、期間が短いとは言えない判断に間違いはないか。

(事務局) そのとおりである。

(委員) 5日間というのは、例年に比べて少ないのか、多いのか。

(事務局) 日程については、例年、学力検査から発表まで5日間としている。

(委員) 第2点検まで実施しない学校があるが、教育委員会より必ず第2点検までしなさいという指導はしていないのか。

(事務局) 点検回数は、採点と点検をもって、複数回ととらえることができるため、点検を2回行わなければいけないということを教育委員会からは通知していない。

(5) 協議

(事務局) 1 (1) は、採点業務の日数等。採点のために授業を半日にしたり、臨時休業にしたりしている。各学校では、検査日2日間を含めて最大4日間の臨時休業日を定めることができる。1 (3) は、受検者数、採点者数、採点誤りの数の関係。4は、採点誤りの要因についての調査結果。採点者の集中力の持続・慣れが一番の要因、もしくは1つの要因と考えているが最多である。5は、入学者選抜に係る改善策・要望等。マークシート方式の導入がよいが最多となっている。解答用紙のレイアウトの工夫、小問の得点を記入する欄の設定で改善が図れると考えている校長も多い。マークシート以外では、採点支援システム導入との回答が最多。別紙2は、教科担当者の回答結果である。2 (2) 点検回数は、1回の学校より2回の学校の方が誤りのあった学校数は減少するが、それでも3割以上の教科で誤りがある。その他の結果は、校長の結果と似た傾向となっている。

(委員) 採点支援システムとはどういうものか。

(事務局) ・マークシートとは異なり、記述式で答えるもので、スキャナーで読み込みパソコンのデータとして保存。その後、問題を全員分まとめて見ることができるため、同一問題に対し、複数の受検者の答案をきちんと見ることができる。これより、基準のぶれも起きにくく、採点がしやすくなる。小計は自動計算されるため、ミスは起きにくいというメリットがある。

・令和5年度選抜から、デジタル採点システムで行っている県もあるが、処理に手間がかかり、教員の負担軽減には結びつかなかったと聞いている。

・人の手で書かれた字の判断は、最後は教員が行う。文章題でも使えるが、文字数が多いため一度に見られる人数には限界はある。

(委員) ・自宅の近くの私立高校では、試験の翌日に合格発表していると10年ほど前に聞いたが、全てマークシート問題であるとのことである。マークシートにすれば、教員の採点ミスも出ないのではないか。文章題をどう組み込むかということは課題である。

・司法試験では、全部マークシート形式である。論文試験の場合には、全部複写し、A教授とB教授とそれぞれが採点し、A教授とB教授の得点が離れている場合に協議をする。コピーをとり、違う人物が採点し、点数が違ってないかが重要なところ。ただ、それだと結局1つの答案に対し、2倍の人数が必要になってしまう。

(事務局) 県立高等学校における入学者選抜に係る現状を理解し、具体的な改善策等の検討につなげていくため、本日は、県立高等学校の校長・教頭・入試担当の教員を招いている。学校現場の実態等を聞き、今後の具体的な改善策等の参考にしてほしい。

(教 頭)・計3回の採点、点検、抽出点検を行っている。

・1日目は、丸一日を使って採点。2、3日目は、午前中が授業、そして午後採点と、約2日間を使って採点した。作文等の採点に関しては、採点に大変時間がかかるため、検査の1日目から数名で採点を行っている。

・現場の状況として、ぎりぎりの人数で行っている。授業を午前中に行い、午後採点という日もあり、疲労感も大きく、集中力の持続が確保できないという状況がある。

(教 諭)・1検、2検、3検と、3回の採点、点検をしている。採点マニュアルを作る時に一番気をつけていることが、3検目のマニュアル。

・採点前に原本のコピーを取る。1検目、2検目は、原本を採点し、点検する。最後、3検目として、コピーをもう一度さらの状態で採点し、コピー答案と原本とを照らし合わせる。その作業でミスが発覚し、再度点検したこともあった。そこで防げたことで、今年度も誤りをゼロと報告している。

(校 長)・採点前に、職員へ「答案の開示があっても耐えられるよう、ミスのない採点を。」と伝えている。採点業務が長丁場になるため、意識を高めて取り組んでいる。自身も採点会場に赴き、順調に採点が進んでいるか、取組状況を見ている。

・他者が採点した答案を、次の人が点検するとなると、気持ちの緩み、前の人を信頼する部分も自然と生じてしまうが、誤りがあるものだと思います、採点することを呼びかけている。

・日程的な余裕を確保し、先生方が採点に集中できる環境をつくり、点検の回数を増やすことにより、ミスを少なくしていく。

・他の業務と並行しながら、というところもあるが、臨時休校にして採点日としており、採点自体には集中させることができる。

・採点の負担を軽減するという意味では、マークシートを導入し、確実性を高めるところも、一つの案ではある。

(委 員)・大学では、採点は各試験の科目ごとに行っており、その科目ごとに教員が大きな教室に集まって採点をする。さらに、大問ごとにテーブルに集まり、採点をしていく。まず1人が採点をし、それを別の人チェックをし、さらに小計についてもまた別の人小計を計算し、別の人チェックをする。さらに採点された答案を、一部の事務職員が、もう一度チェックをする。それでもミスはある。誰が採点、チェックしたか名前を書いているため、ミスを発見した場合、採点者に内容を確認し、訂正するというプロセスをとっている。

・学内における教員採用模擬試験で、筆記試験はマークシートのため機械で採点し、面接、模擬授業、論文等は2人で採点している。また、点数等の合計は一括して事務局で行っている。

・答案をコピーし、本物の答案で採点、点検し、さらにコピー答案で再検するというのは手間であるが、方式としては理にかなっている。一方、記述式の部分点については別の人が採点すると、揺らぎが出てくるのでどう対処するかが課題である。

・対策としては、マークシートを導入し、読み取り機械を導入するか、または、現状の採点方法のまま日数を確保、もしくは人員を確保するかのいずれかなのかと感じている。

・マークシートの導入を今後検討していくにせよ、例えば、先生のOBなどに採点の時だけ短期間手伝ってもらおう等、人手を増やす方法を考えられるのではないかと。

・今回の事故を他県のようにマークシートにするきっかけとしてもいいのではないかと。それについては、教員の働き方改革ということにもつながると思う。私も校長時代には、地域の家庭対象に学校評価アンケートをマークシートで行い、エクセルのシートへ数字に変換しカウントした。

・1つの論点はマークシートの導入である。もう一方で、記述式が非常に重要ということも昨今言われており、大学入学共通テストでも、記述式の導入が期待されていた。そこでは「考える力」というのが非常に大事なので、採点誤りの話と、記述かマークシートかという問題は別で議論した方がいい。記述は非常に大事なので、今回の採点誤りを機に、マークシート方法に傾倒していくのは、少し違うのではないかと。

・今回、話を聞いた中で、採点とその点検については、非常に皆さんが注意し、よく検討されて取り組んでいることを改めて認識した。

・どうしてもミスは出る。今回の結果を見て、平均すると1校あたり10件程度ミスがあるという数値である。ミスをゼロにするということを突き詰めていくと、また膨大な労力がかかるため、実際には難しいという感覚がある。

・一番の問題は、合否がひっくり返るということであるため、合否のボーダーのところに関して重点的にチェックをするような仕組みを導入するというのが、最良の改善策であると感じる。

・私は、高校入試の状況はよくわかっているつもりでいる。高等学校の教員全員で採点はしたが、教科の専門性というものがあり、入試の時、体育や芸術等の教員は、記号の採点しかしない。その部分がマークシートに変わると、解答用紙の枚数を教員の人数でただ割って、1人何枚かとはならない。

・ミスが起きないように解答用紙の作り方、もしくは問題の順番、設問の順番について、うまく作ることを教育委員会の方で工夫するのがいい。部分点がある問題や、3点、2点、3点という配点では間違いやすくなるため、小計の欄を設けたり、設問の順番を変えたりする等、わかりやすくすることができればよい。

・コピーをとって3回目まで実施するというのは、校長が言っても「はい。」と言う教員ばかりではないので、なかなか厳しいのが現実である。「仕事が増える。」という反発が起きかねない。

・負担軽減になるような方向性で考えていても、ミスがあっても困るため、ボーダーラインのところのチェックということについて、県からの指示という形をとるのもいいのではないかと。

・本日は、アンケート結果の報告及び協力者からの貴重な情報提供をしていただいたことで、今回の採点誤りについての原因や課題について理解することができた。一方で、この問題の解決には、各高等学校での取組に加え、マークシートや自動採点システムの導入など、各高等学校を支援する視点も重要であると認識した。